

Uni-HORP による北海道東部海域でのシャチの生態研究

大泉 宏 (東海大学海洋学部)

北海道東部海域にはシャチ (*Orcinus orca*) が定期的に来遊する。演者らは東海大学の他、三重大学、北海道大学、京都大学、常磐大学の海棲哺乳類研究者およびその他の協力者と研究グループ「北海道シャチ研究大学連合 (Uni-HORP)」を組織し、2011 年以来組織的に道東のシャチの生態研究を行ってきた。北海道東部ではシャチは主に釧路沖と根室海峡の二海域に来遊する。Uni-HORP の調査では個体識別による出現履歴の追跡、衛星標識による行動追跡、コールレパートリー解析による社会構造の分析、DNA による生態型判別を行い、道東のシャチ個体群の属性を研究してきた。その結果、北海道東部のシャチには少なくとも二つの個体群 (生態型) があること、生態型が同じで、ある程度の血縁関係が予想されるものの行動圏が大部分異なる集団があること、ロシア水域の個体群と何らかの関係があることが示唆されている。今後も長期的な個体追跡を続けて行くことで個体群の動態が明らかになっていくことが期待される。しかし、調査体制を長期的に維持することには制約も大きく課題となっている。